新刊紹介

過去約2年間に発行された書籍の中から時事的で話題性があり内容豊かなものを会員のご要望に応えながら編集委員会が選択して紹介いたします。

『悪いヤツほど出世する』

ジェフリー・フェファー 著、
村井章子 訳｜日本経済新聞出版社 2016、272pp.

『悪いヤツほど出世する』、刺激的なタイトルである。認めたくはないが、昨今のリーダーと呼ばれる人達を見れば、ある程度、認めざるを得ないような気もする。この本の原題は、Leadership BS、BSとは「たわごと」を意味する俗語であるbullshitの略である。つまり、原題の意味は、「リーダーシップは、たわごとである」というところであろうか。リーダーシップの研究者としては、原題の方がはるかに手厳しい。

ところで、肝心の内容であるが、タイトルと同様に内容の方も辛口である。とりわけ、昨今のリーダーシップで注目されているようなリーダーとしての真っ当さを問う議論、そして、リーダーシップ研修を主とするリーダーシップ産業に対して、「謙虚さ」、「自分らしさ」、「誠実」、「信頼」、「思いやり」、というそこで重視されている各要素を批判的に議論している。

著者のジェフリー・フェファーはスタンフォード大学の組織行動論の権威であり、単なるリーダーシップ批判の書ではなく、むしろ、リーダーシップに対する警鐘の書であると言えるだろう。

評／『彦根論叢』編集委員／小野善生

『フォロワーが語るリーダーシップ ―認められるリーダーの研究―』

小野善生｜有斐閣 2016、430pp.

新刊紹介で自著を紹介するのは、はばかられるのであるが滅多にない機会であり、対外的にアピールする数少ない機会なので、ここはあえて筆をとったしだいである。

拙書は、リーダーシップの研究書であるが、リーダーではなくフォロワーの視点に基づいている点、フィールドワークによる定性的方法論を用いている点で従来の研究とは異なる。具体的には、フォロワーのリーダーシップに関するナラティブとそのナラティブに対するリーダーのリアクションという枠組みからリーダーシップがいかに生成されていくのかを3つの事例研究を通じて明らかにしたという内容である。そこからもたらされた結論としては、開眼、感謝、共鳴という経験がリーダーシップの受容につながるということ。さらには、フォロワーがリーダーシップを認識したリーダーの行為に対してリーダーは必ずしもリーダーシップを発揮するという意図を有していないことが導き出されている。

このように、従来とは全くことなるアプローチによる探索的視点に基づく研究ならではの結論が導き出されているが拙書の特徴である。

評／『彦根論叢』編集委員／小野善生